

平成 28 年 10 月 14 日

各 位

会 社 名 s a n t e c 株式会社
代表者名 代表取締役社長 鄭 台鎬
(コード番号: 6777)
問合せ先 業務部次長 山下 英哲
(TEL 0568-79-3535)

特別損失（投資有価証券評価損）の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

この度、下記のとおり平成 29 年 3 月期第 2 四半期における特別損失（投資有価証券評価損）の計上をお知らせするとともに、平成 29 年 3 月期第 2 四半期の業績予想を修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の内容

「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価が著しく下落した米国上場株式について、減損処理による投資有価証券評価損として 157 百万円を特別損失に計上する見込みとなりました。

なお、四半期における投資有価証券の減損処理にあたっては、洗替え方式を採用しているため、平成 29 年 3 月期の各四半期末の時価により、投資有価証券評価損の計上額が変動する場合、もしくは計上しない場合があります。

2. 業績予想の修正

平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結業績予想数値の修正
(平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 四半期純利益 | 1 株当たり 四半期純利益 |
|--|-------|------|-------|--------------------------|------------------|
| 前 回 発 表 予 想 (A) | 1,900 | 5 | 50 | 35 | 円 銭 2.98 |
| 今 回 修 正 予 想 (B) | 2,014 | 197 | 122 | △39 | △3.31 |
| 増 減 額 (B - A) | 114 | 192 | 72 | △74 | — |
| 増 減 率 (%) | 6.0 | — | 144.0 | — | — |
| (ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期) | 1,637 | 38 | 115 | 416 | 34.86 |

平成 29 年 3 月期第 2 四半期個別業績予想数値の修正
 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

| | 売上高 | 経常利益 | 四半期純利益 | 1 株当たり 四半期純利益 |
|--|-------|-------|--------|------------------|
| 前回発表予想 (A) | 1,700 | 35 | 25 | 円 銭 2.13 |
| 今回修正予想 (B) | 1,857 | 85 | △61 | △5.18 |
| 増減額 (B - A) | 157 | 50 | △86 | — |
| 増減率 (%) | 9.2 | 142.9 | — | — |
| (ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期) | 1,506 | 104 | 407 | 34.06 |

3. 修正の理由

当第 2 四半期連結累計期間においては、想定を超える円高進行に伴い海外売上高の円換算額が減少したものの、利益率の高い光測定器関連事業製品の売上高割合が当初の予想以上に大きくなったこと、またベトナム生産の安定化に伴い光部品関連事業製品の採算性が向上したことにより、売上高、営業利益及び経常利益が平成 28 年 5 月 13 日に公表した予想数値を上回る状況となりました。

一方で、為替相場の変動により保有する外貨建資産の期末換算に伴う為替差損 73 百万円等を計上することに加えて、投資有価証券評価損 157 百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は予想数値を下回る見通しとなりました。

個別業績予想につきましては、上記の連結業績予想と同様の理由によるものであります。

なお、通期の業績予想につきましては、堅調な売上高の維持と固定費抑制に努めてまいりますが、為替相場や投資有価証券の時価などの見通し難い要素が大きいことから、今後の業績動向を踏まえ、修正が必要と判断した場合には速やかに開示することといたします。

(注) 本発表における各種予想数値は、本資料の発表日時点で入手可能な情報を元に作成したものであります。実際の業績値は、今後様々な要因によって、本予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上